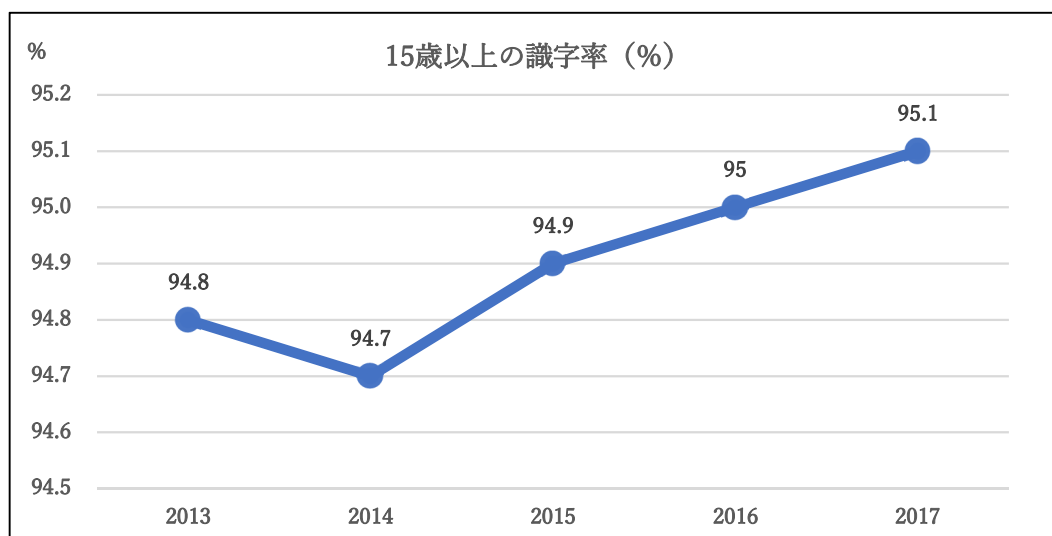




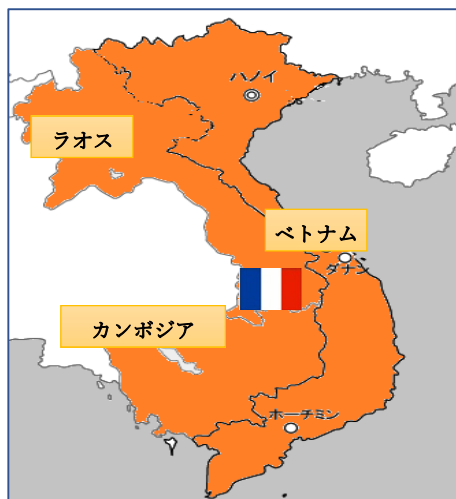
ベトナムの教育水準 高い識字率と東南アジアトップクラスの科学・数学リテラシー

ベトナムの教育水準は非常に高く、識字率は95%以上で、就学率は98.0%（小学校）、92.6%（中学校）、74.3%（高校）、28.3%（大学）である（ベトナム統計総局）。



出所：ベトナム統計総局

ベトナムの識字率が高いのはベトナム語表記の簡便さに由来する。ベトナム語は基本的にはアルファベット表記で特有の音調記号は付くものの、高等教育を受けなくても読むことはできる。かつては漢字表記であったが、フランス統治時代にアルファベット表記が導入された（前ハノイ日本人学校教頭 青柳文男氏）。













19世紀半ばに始まるフランスの統治時代、インドシナ半島（ベトナム、ラオス、カンボジア）のフランス化を目指したフランスがベトナム人を官僚として統治に利用しようとした（ベトナムは古来中国の影響で科挙という官僚制度を備えていたからだと言われる。フランスはラオス人、カンボジア人をこのように扱うことはなかった）。それまでの漢字文化では言語による文化の民衆への普及に限界があったため、言語をローマ字表記法に変えるとともに教育に力を入れたことがベトナム人全体の識字率を大幅に向上させる結果となった。

教育経済学では、経済発展の初期段階において初等教育の拡大が重要な課題とされている。人的資本（＝教育）は経済成長の重要なファクターの一つと認識されているのである。技術進歩とそれを支える基礎教育が経済成長率に影響を与えるとされる。



ベトナムは 2020 年代初頭の工業国入りを目指して掲げており、そのために政府は教育には力を入れている。国立大学以外にも、国家戦略的タスクを遂行する総合大学である国家大学が存在し、ランキングでトップ校でもある（国家戦略的タスクとは、技術的 R&D や文化面等で国益に資する特定の国家プロジェクトへの貢献である）。1998 年に教育法が初めて制定され（2005 年同法改正）、6 歳から 5 学年の小学校および 4 学年の中学校、計 9 年間で義務教育とされている。但し、経済発展と共に、その後、高校 3 年、大学 4 年へと進学する人も増加している一方、都市部と地方との教育格差が生じている。2019 年 6 月 14 日、教育法の改正が国会で承認され、追加の学費免除、教師の質の向上等に関して新たな施策が講じられることとなった（2020 年 7 月 1 日から施行）。

科学的リテラシーおよび数学的リテラシーでは東南アジアではトップクラスとなっている（出所：Young Lives リサーチ；%の数字は共通の質問に対する正解率）。

① シンガポール (93.2%)		⑥ イギリス (87.1%)	
② 日本 (92.9%)		⑦ イタリア (84.8%)	
③ オランダ (92.1%)		⑧ カナダ・ケベック (82%)	
④ 香港 (90.3%)		⑨ ベトナム (80.4%)	
⑤ アメリカ (89.2%)		⑩ ペルー (70.3%)	

ベトナム国民の教育水準は総じて高く、OECD の PISA※（学習到達度調査：2015 年）においてもタイやインドネシア等の他の新興国はもちろん、欧米各国をも凌ぐ水準にある。

PISA(2015)のランキング

		科学	読解力	数学		科学	読解力	数学	
	OECD平均	490	493	493	12	ニュージーランド	513	509	495
1	シンガポール	556	527	564	13	スロベニア	513	505	510
2	日本	538	516	532	14	オーストラリア	510	503	497
3	エストニア	534	519	520	15	イギリス	509	498	492
4	台湾	532	497	542	16	ドイツ	509	509	506
5	フィンランド	531	526	511	17	オランダ	509	503	512
6	マカオ	529	509	544	18	スイス	506	492	521
7	カナダ	528	527	516	19	アイルランド	503	521	504
8	ベトナム	525	487	495	20	ベルギー	502	499	507
9	香港	523	527	548	21	米国	496	497	470
10	中国	518	494	531	22	タイ	421	409	415
11	韓国	516	517	524	23	インドネシア	403	397	386

（出所：OECD）

※PISA(Programme for International Student Assessment) は OECD が 3 年毎に実施している国際的な学力到達度調査であり、初等・中等教育の学力の成果を判別する（15 歳児対象）。単なる知識だけでなく問題解決能力を問うという特性があり、知識偏重型教育の国（タイ等）に比べ数字で大きく上回るベトナムは理数科教育の質が高いことが示されている。



【参考①】

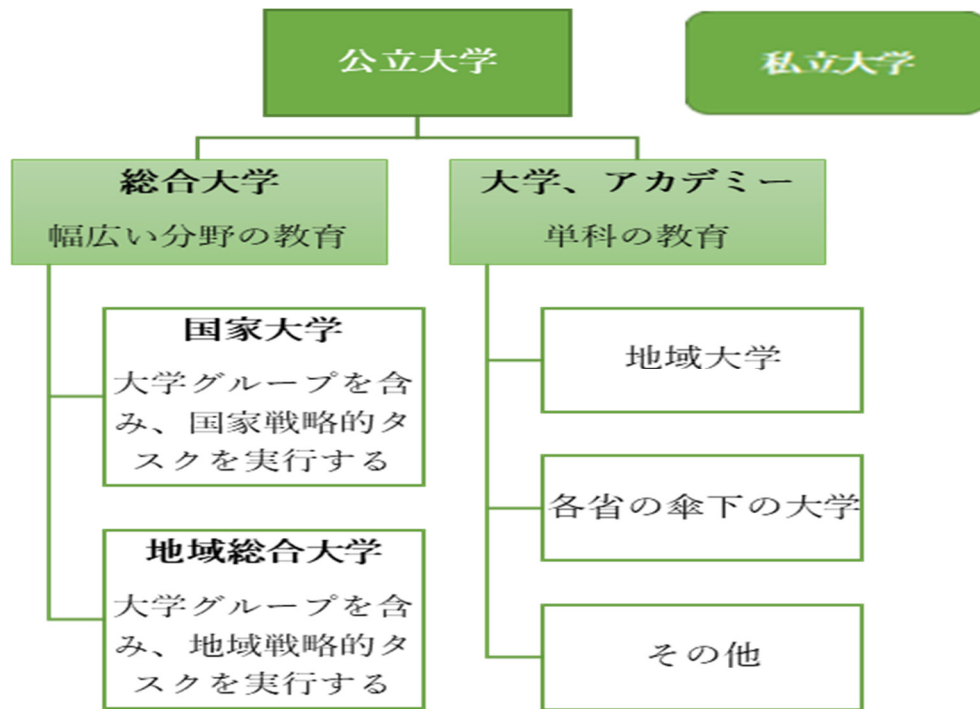
ベトナムでは国家レベルだけでなく、各家庭においても教育は重んじられ、2018年の教育への投資はGDPの8%を占めた。子供の教育は何よりも優先され、生徒のモチベーションを家庭レベルでも高めている。

ベトナムの大学ランキング（2019年版）

- | | |
|-------------------------|---------------------|
| 1. ベトナム国家大学ハノイ校（国家大学） | 6. ハノイ医科大学（国立大学） |
| 2. ハノイ工科大学（国立大学） | 7. ベトナム国家農業大学（国立大学） |
| 3. カントー大学（国立大学） | 8. ダナン大学（国立大学） |
| 4. トン・ドゥック・タン大学（私立大学） | 9. 通信郵政工業学院（国立大学） |
| 5. ベトナム国家大学ホーチミン校（国家大学） | 10. フェ大学（国立大学） |

出所：Webometrics 世界大学ランキング

ベトナムの大学分類



ハノイ工科大学



ベトナム国家農業大学



【参考②】

留学先トップ6か国

日本の大学留学には日本語という高い障壁があるにも関わらず、日本はベトナム人の留学先としてはトップである。日本を範として社会、経済運営をしていこうとする志向も根強く、日本に対する思い入れも強い国である。



出所：ベトナム政府、教育省

以 上

<本資料に対するお問い合わせ先>

キャピタル アセットマネジメント株式会社 マーケティング本部 電話 03-4543-1090 HP: <http://www.capital-am.co.jp>